

2025年3月31日

和歌山市長
尾花 正啓 様

日本共産党和歌山市会議員団

森下 佐知子

南 畑 幸代

坂口多美子



和歌山城公園動物園の飼育環境は動物福祉を重視した環境を目指すこと、
及びツキノワグマの飼育を中止する申し入れ書

昨年、ツキノワグマ・ベニー（三代目）が死亡したことから、2025年度予算で和歌山城公園の動物園熊園舎の飼育環境改善や安全性強化等に向けたリニューアルのため、改修工事の実施設計予算477万4千円が計上されました。これまで約53年間、クマは、70㎡の狭いコンクリートの施設で飼育されてきました。このような飼育の在り方はストレスを与え続けることになると考えます。

世界ではヨーロッパを中心に、動物飼育の考え方は大きく変わっており、人を主体とした主観的な動物愛護ではなく、動物の観点からみてその「動物」が必要としているものを満たすこと、動物福祉の考え方が広がってきています。動物たちが心身ともに健康に過ごせるよう動物の目線で考え、配慮することが重視されるようになっているということです。

望ましい環境が作れない場合は飼わない選択肢もあると考え、京都市立動物園はライオンの飼育をやめています。愛媛県立戸部動物園はかつて道後動物園であった頃、動物をたくさん集め手狭な柵の中で飼育、人間の娯楽のための施設という考えのもとに運営されていましたが「動物を見世物とするのではなく動物から学べる場に」と自然豊かな施設に大移動させ動物福祉の考え方へと変わっています。

和歌山城公園の動物園としても、動物福祉の観点から飼育の在り方を動物福祉の方向を目指すこととし、あまりにも狭すぎるツキノワグマの飼育については、施設改修の機会に中止すべきだと考えることから以下の内容を申し入れます。

記

1. 和歌山城公園内の動物園に新たなツキノワグマを飼育することを止めてください。
2. 今後の動物園の在り方を動物福祉の観点から飼育環境を重視した取り組みとしてください。

以上